



## アジュール・フロットン再生プロジェクト

2月も立春を過ぎてパリは少しずつ暖かくなってきた。マイナス気温から朝夕1~2°C、昼間は10°Cを超えるようになり、日差しが戻りほっとする毎日である。

戦争で鉄が不足する1919年、ルーアン近くの造船所で急ぎ造られたコンクリート平底船「ルイズ・カトリーヌ号」(通称アジュール・フロットン)がセーヌ川に沈んで丁度5年が過ぎた。

2018年1月下旬から2月上旬にかけてセーヌ川が溢れた。1月31日上流ヴェルノンで測定された水量は1秒間に2120m<sup>3</sup>、パリの水位が5,80mに達した量に相当する。パリ・セーヌ川水位はオステルリッツ橋で測定される。そこは、

アジュール・フロットンが係留されている場所だ。通常は1~1,5mの水位で、4mを超えると岸に水が上がる。自然相手のことで毎年12月頃から増水期に入る。1910年パリ市内が冠水した時は8,62m、2016年6,10mと記録的な増水は繰り返される。2018年2月11日ようやく水が引き始めた時、「ルイズ・カトリーヌ号」の舳が岸に乗り上げていることに気付き、大型タグボートで川に引き戻した反動で後部船体が岸の金属に衝突し穴が開き浸水し、20分足らずで沈没してしまった。



凍える午後の出来事で2月11日になるとあの日の寒さを思い出す。

この事故を巡って、船のオーナーは沈没の責任はタグボード会社にあると支払いを拒否、タグボード会社は未払いを訴えて訴訟となった。裁判の結果はタグボード会社に軍配が上がり、船のオーナーは会社解散、資産として残った沈没船を日本建築設計学会が買取ることになり船は解体の危機を免れたのである。

2020年8月コロナ禍真っ最中の裁判で日本の関係者は渡仏が難しく、パリで事務所を開いておられる日本人弁護士橋本先生が出頭され、日本建築設計学会が法的に正式な船所有者となり、10月19日日本の資金で沈んだ船の引揚げに成功した。賞賛に値する素晴らしい結果だった。

予期せぬ展開の連続でアジュール・フロットン所有者になった日本、引揚げ後すぐに修理・修復工事に入るつもりがフランスの文化財指定の大きな拘束を受けることになった。文化

財建築家にスタディを依頼し、フランス文化省に工事許可を取らなければならないが一筋縄ではない。セーヌ川増水期(11月から4月)には予定通りの調査ができない上、修復工事見積りが10億円を超える巨額なプロジェクトになってしまった。資金集めをしているうちに浮上からすでに2年半が過ぎようとしている。

この先何年も待つことはできない。沈没時に船体に亀裂が入り、修理を急ぐ必要がある。浮いている船は絶えず前後左右に揺れている。物流船が頻繁に航行し、大きな波を受け続けている。鉄筋の腐食が進んでいる。禁止された場所に入り込んでビデオを撮るYouTuberなど不法侵入者が絶えない。いつまでも現状維持できるとは思えない。資金的な負担が大き過ぎる。電気代、岸の利用費、棧橋の保管料など月々の出費がある。三冬を乗り越えたが今年プロジェクトが動かなければ極めて困難な経営状況になる。増水期が終わる4-5月から修復工事をスタートする目標で準備を続けている。



(上記写真は船底に電流を流しての鉄筋調査中)

来年2024年7月パリ・オリンピック、2025年大阪万博と大きなイベントに関連付けた日仏共同プロジェクトとして船を後世に残すことができれば願ってもない。修復工事に入る最後の調査として船底コンクリートを削って鉄筋の状態をみることになった。コンクリートの厚さは6-7cmしかなく、船底だけに造船以来一度も行われたことのない調査だ。鉄筋を腐食から守るための「電流腐食防止(電食)」を行うべきか、先に延期できるかを判断する目的である。百年前のコンクリートはしっかりしていて、そのコンクリートに守られた鉄筋部分の保存は良い。腐食した部分を修理すればこの先50年は保つそうである。

形として残る歴史には訴える力がある。百年以上の個人・集団・社会の歴史を見護ってきた鉄筋セメント船を若い次の世代に残すことができれば日本からの資金は無駄にならない。船はパリにあり、フランスの文化財である。今後長く所有することを日本建築設計学会は望んでいない。フランスとの共同出資で船を修復し、フランス主導で日仏交流の場として新たな船出を遂げて欲しいのが日本の願いだ。短期間でいかにして大きな資金の壁を乗り越えられるか、大変なことである。

編者コメントパリ通信の執筆者古賀さんはこのプロジェクトに最初からボランティアとして参画されている。通訳のみならず資金集め、現地パリでの関連実務をこなしておられる。

アジュール・フロタンには並々ならないエネルギーと愛情を注いでこられた。日仏の協力が実って平和な文化交流が結実することを願い祈っています。小原記